
からす

ピヨ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
からす

【Nコード】
N2260B

【作者名】
ピヨ

【あらすじ】
22歳の憲治。憲治は中学、高校と悪さが好きな奴だった。今現在も、こいつは悪さをしているに違いない。わけのわからない仲間をひつつれて。そう、からすのような嫌われ者達の群をつくって。

プロローグ

あの頃はまだ無邪気だった。

無理なことやって、バカみたいにガキみたいにはしゃいでたあの頃。
もう、四年も前のコトだけど・・・

第一章

「憲治さーん！！酒買ってきましたよー！」

「オウツ！サンキュー！」

俺の名前は憲治。今日、INFINITY CROWの五年記念日パーティーがある最高の祝日だ。

プシュツ。

「あ、あれ？ここで飲んでっちゃんすか？もう、インフィニパーティー始まっちゃいますよ？！」

「わかってらー！いいから、テメーも飲め！準。」

こいつは準。二年前に仲良くなったダチだ。俺の助手みてーなやつだ。いつも、俺の近くにいて、なんか気持ちわりー奴だ。もう慣れたけど。

ゴクツと缶ビールを一口のむ。

「しかし、インフィニももう五年か。」

「早いっすよねー。」

「はえーなー。」

あつ、そうそう。インフィニってのは俺らのグループの名前。IN
FINITY CORW。池袋最強のいわゆる、チーマーだ。でつ、
そのリーダーが俺。憲治だ。

「憲治さんもすごいっすねー。」

「ん？なにがだ？」

「いやー。五年もインフィニのリーダーやってるなんて、マジ惚れ
ます。」

「バーカ！！きもちわりーよ。」

「いや！真面目にほれますよー。あん時憲治さんが俺を拾ってくれ
なかったら、俺は今頃つまらない毎日を送り続けてましたよ。」

「はっはっはっ！感謝しろよ！」

「ううーっす！！」

プルルルル

電話だ。

ガチャ

「もしもし？憲治さん？」

「おー。実、どした？」

「どしたじゃないっすよ！なにやってんすか？！」

「わりーわりー。今そっち行くよ！」

「わかりました！早くきてくださいー！！」
ガチャ。プープー。

そう言って実は電話を切った。

「よしっ！行くか準！」

「オッスー！！」

二人は車に乗って走り始めた。

第二章

ブオオオオン!!
キキイー!!!

バタン。

「憲治さん相変わらず荒い運転すねー（汗）オエー。吐きそう。」

「なに言ってるんだよ! いくぞ!」

CLUB INFINITY。ここにももう、五年世話になってんだな。

ガチャツ。

中に入るとクラブ内の奴らが待ってましたと言わんばかりに大きな歓声がわいた。

「憲治さんだー!!!」

みなかくちばしにそう叫ぶ。

「憲治さん!」
実だ。

「みるー！ すごい盛り上がってるじゃねーかー！！！」

「はい！ 憲治さんステージに立ってなんか一言ってきてください！」

そう言うとは実は無理やり俺をステージへ連れて行った。

「みんな注目！ 我らが誇る、インフィニの頭憲治さんから一言もらいたいと思う！ 耳の穴かっぽじってよく聞け！」

と、実がマイクを渡す。

「オメーラー！！ 盛り上がってるカー？！」

おおー！！

クラブが揺れるほどの歓声がわく。

「今日は朝まで飲み明かそうぜー！！」

おおー！

ステージから降りると、実がこっちへ来いと手招きしている。

「どした？」

「いや。。。ウォッカでもどうかなって思って。」

「おう。ショットガンでな。」

「ウィッス。」

ゴクッ

「かぁー！やっぱ祝い事はウォッカに限るな！」

「ははっ。そうっすね！」

?? なんか今日の実変だな。

なんて思ってたら、パーティー一日目も終わってしまった。

「じゃー、九時にまたここくっから。」

「はい！わかりました。遅刻厳禁っすよ！」

「わかってら！」

俺は家に帰った。家についた俺はシャワーを浴びて、九時まで寝ることにした。

布団にもぐり、目をつむる。

（そーいやー五年間の間いろんなコトがあつたなー。懐かしい。）
頭の中で考えてたらいつの間にか寝ていたらしー。午後8時に目が覚めた。

「8時か。」

用意をしてパーティーに行く。その途中、準を迎えに行く。

「おはよーございます！」
相変わらずデケー声だ。

「おう。乗れ！」

準を乗せ俺はCLUB INFINITYへ向かった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2260b/>

からす

2010年12月19日14時04分発行